

漁業被害調査について

1 調査の必要性

○アザラシ類による漁業被害の軽減

北海道アザラシ管理計画では、沿岸漁業資源への深刻な影響を回避するとともに漁業被害が受忍限度を超えない水準にまで軽減するとしている。(管理計画 3 の 3.1)

2 課題

○漁業被害の実態把握

入網前の食害、アザラシ類が網に付くことによる入網率の低下による影響、漁獲物の食害痕が残りづらい刺し網漁業の被害実態など漁業被害全体の把握が困難である。(管理計画 2 の 2.2)

(1) 年、地域、漁獲魚種、漁業形態・規模によって、被害の大きさや性質が異なる。

(2) 豊漁・不漁や景気、社会情勢に影響を受ける。

※ 漁業被害の実態把握は、上記(1)、(2)のとおり多面的で、容易ではない。

3 対応方向

漁業協同組合、漁業者から漁業被害の増減の認識などについて、聞き取り調査を実施し、数字だけでは評価できない定性的評価も検討する。(管理計画 9 の 9.2)

4 調査方法

次の要点を踏まえ、漁業者や漁業組合に直接聞き取りを行う。

(1) 地域の漁業の全体像を最初に確認する。(魚種、漁法、漁期、漁家数、水揚げ数など)

(2) 年次的な被害の傾向を聞き取る。

(3) 漁をやめてしまった例など表面では見えない被害について聞き取る。

(4) トド、アザラシ、オットセイの区別がはっきりしている場合とはっきりしていない場合があるのでそれを確認する。

(5) 併せて、目撃状況、捕獲や追い払いの実施、補助の利用の有無、観光への利用、肉などの有効活用、混獲した個体の処理方法などについても確認することが望ましい。

■ 北海道アザラシ管理計画（第2期） 抜粋

2. 課題

2.2. 漁業被害の実態把握

サケ定置網漁業では、網の中に残った「トツカリ食い」の食害サケを数えることにより被害の状況を把握しているが、入網前の食害、アザラシ類が網に付くことによる入網率の低下による影響、漁獲物の食害痕が残りづらい刺し網漁業の被害実態、及びアザラシ類が上陸することによるフノリなどへの影響については、把握が難しく、漁業被害全体の把握が困難であることから、漁業者の被害認識などを基に被害の増減傾向の把握に努める必要がある。

3. 計画策定の目的

3.1. アザラシ類による漁業被害の軽減

近年、アザラシ類による漁業被害の拡大が顕著であり、その被害規模は漁業者の受忍限度を超え、地域経済への影響も懸念されている。

この計画は、北海道沿岸のアザラシ類を適正な生息、回遊個体数に維持することにより、沿岸漁業資源への深刻な影響を回避するとともに漁業被害が受忍限度を超えない水準にまで軽減することを目的とする。

9. モニタリングに関する事項

9.2. 漁業被害

周年定着個体数の削減による漁業被害の軽減効果を検証するため、漁業被害の増減の認識などについて、漁業協同組合、漁業者からの聞き取りやアンケート調査などを実施し、数字だけでは評価できない定性的評価も検討する。